

臨床研究内容 ホームページ公開用

1. 研究課題名称

判別分析を用いた急性期脳損傷者における自動車運転再開可能者と困難者の特徴
～後ろ向き観察研究～

2. 研究の背景・目的

近年、高齢者による自動車運転事故が社会的な問題となっており関心を集めております。65歳を超える高齢ドライバーは、認知機能や注意機能が低下していることが指摘されております。高齢者における自動車運転事故の関連因子には、認知や遂行機能や身体機能の低下が報告されております。特に近年では、転倒歴の有無に着目が集まっています。転倒の原因は、身体機能の低下や認知機能、薬剤など多岐に渡りますが、フレイル (Frailty) の指摘も提唱されています。このような背景を踏まえ、後天性脳損傷後の自動車運転再開の判断は、高次脳機能障害の影響も考慮しなければならず、特に慎重になる必要があり適切な判断が求められます。急性期における自動車運転再開の知見は乏しく、判断が難しいことが多い現状があります。一般的に自動車運転再開の支援や評価は、実車評価前の神経心理学的検査やドライビングシュミレーター評価と、実際に自動車を運転し評価する実車評価を組み合わせ実施されます。あくまでも自動車運転評価のゴールドスタンダードは実車評価です。現在、後天性脳損傷後の実車前評価には様々な評価が用いられていますが、運転再開不可を予測する単一の検査は特定できていません。

本研究の目的は、入院中の包括的な評価を用いABI後の運転再開困難者を分析し、後天性脳損傷後の運転適性において、臨床上有用な実車前評価について検証することとします。

3. 対象者および期間

対象は、脳卒中や脳外傷によって当院にて治療を行った後天性脳損傷者とします。当院退院後に運転再開の希望があり、運転再開の支援を行った者を調査します。期間は、2019年6月～2023年6月までの対象者を調査・研究します。

4. 研究内容

後天性脳損傷者の入院加療中の転倒歴を調査します。また、臨床評価として診断名や重症度、身体機能や能力を評価します。さらに、神経心理学的検査を調査します。運転の再開が可能であった群と再開が困難であった群の2群に分類し分析を行います。次に、多変量解析を用いて、運転再開の困難者の特徴を分析します。従属変数に運転再開の可否として、独立変数は、単変量解析で有意差を認めた項目(多重共線性を考慮)として判別分析を実施します。

5. 個人情報の管理について

データの集計の際は患者名をコード化し、個人を特定できないように配慮します。

6. 研究期間

2023年9月から2024年12月までに実施します。

7. 医学上の貢献

後天性脳損傷者における運転再開困難者の特徴が判別できた場合、日常臨床において新たな取り組みができることが示唆され今後入院される患者の治療成績向上に役立つものと考えます。

8. 研究機関

製鉄記念八幡病院リハビリテーション部

9. 連絡先（研究責任者）

上記研究対象期間において該当になる方で研究に対して不都合がある場合や研究に対してご不明な点がございましたら下記の連絡先まで連絡をください。

製鉄記念八幡病院リハビリテーション部 原山永世
805-8508 北九州市八幡東区春の町 1-1-1 TEL:093-671-9318